

(改善の具体的方策)

目標達成に向けて現在順調に進んでおり、さらに継続して目標達成の充実を図るべく、関係部署との連絡を緊密にして実践する。特に、次の点はさらに注力して取り組む。

1. グローバル化や高度情報化に対応できる人材の育成という観点からは、教育内容・制度の弾力化、について、現状を踏まえて改善を適宜実践する。
2. 実証的な社会調査についての教育は、演習などを中心に各教員により学生への指導をさらに充実させるようにする。
3. 外国語科目については、グローバル化時代に求められる教育の多角化を推進するために、さまざまな改革を今後検討する。
4. 単位互換制度は円滑に進んでいるが、これらの制度を学生にさらに周知させるべく、新入生オリエンテーションでの情宣、履修心得での情宣原稿掲載、ゼミでの適格者への直接的な「声かけ」によりPRにつとめる。
5. 聴講生制度、科目等履修生制度については、現時点では社会学部ホームページなどによりPRを行う。

3.1.4.2 教育・研究指導のあり方

【評価項目 6-2-1】 カリキュラムにおける高・大接続

(必須要素) 学生が後期中等教育から高等教育へ円滑に移行するために必要な導入教育の実施状況

【評価項目 6-2-2】 履修指導

(必須要素) 学生に対する履修指導の適切性

(必須要素) オフィスアワーの制度化の状況

(必須要素) 留年者に対する教育上の配慮措置の適切性

(選択要素) 学習支援(アカデミック・ガイダンス)を恒常的に行うアドバイザー制度の導入状況

(選択要素) 科目等履修生、聴講生等に対する教育指導上の配慮の適切性

【評価項目 6-2-3】 社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮

(選択要素) 社会人学生、外国人留学生、帰国生徒に対する教育課程編成上、教育指導の配慮

<2003年度に設定した目標>

1. 1年次から、大学の4年間についてはもとより、就職をはじめとした卒業後の人生を見据えたキャリアデザインを念頭に置いた学習指導を行っていく。
2. わかりやすい履修指導をめざして、『授業科目履修心得』や『学部教育課程表』の記述方法や記載内容を必要に応じて更新していく。
3. 学生への教育・研究指導において、必要が生じた場合には、学生支援センターとの連携も考えていく。
4. リメディアル教育の必要性やその実施可能性について検討していく。
5. 社会福祉学科においては、より質の高い実習指導を行うために、実習指導室の実習生や実習先機関に関するデータベースのシステムを開発するとともに、学生がどこからでもアクセスできる実習指導室のホームページを開設する。また、実習生に対するきめ細やかな実習サポートを可能にするために、実習助手の今まで以上の実習教育への参加や、実習指導室における事務職員の増員などを検討していく。

（現状の説明）

履修指導に関しては、学部教務主任・副主任および教務担当の事務職員がこれにあたっている。まず、学部のカリキュラムと年間の授業計画については、年度の初めに「大学要覧」「授業科目履修心得」「授業時間割」を全学生に配布している。このうち学生がよく参照する「履修心得」の内容については、解りやすい説明を心がけ、毎年改善を加えている。

学生はこれらを参照しながら、「学則」と「学部内規」にしたがって各自の年間履修計画を立て、履修届を学部事務室に提出する。新入生については、オリエンテーションの一環として、学部のカリキュラム全体を説明し、全般的な助言を与えるとともに、4年間にわたる履修計画を立てるよう指導している。なお、外国人留学生の場合は、一般学生と一部カリキュラムが異なる部分があるので、別個のオリエンテーションも行い、編入学生に対しては、編入学後の履修内容が学生によって異なるため、単位認定の面接時に履修指導も併せて行っている。

学生への指導体制として、ゼミ担当教員、アドバイザー教員の指導がある。まず1年生の春学期に、必修科目である基礎演習を履修することになっているが、3年生の研究演習に入るまでの期間は、基礎演習担当教員が当該学生のアドバイザーとなり、オフィスアワーなどを利用して学生指導を行っている。また、研究演習を履修している3・4年生の場合は、卒業論文に関する助言をはじめとするさまざまな指導を主にゼミ担当教員が行っている。

留年者については、ゼミに所属している学生については、ゼミ担当教員が個別に相談に応じ対応をすることにより指導をしている。ゼミに所属する前の学生については、アドバイザー教員が指導をしている。なお、いずれのケースにおいても必要に応じて、学生主任、同副主任および内容によっては学部職員も指導を行っている。

また、キャリアデザインへのサポートとしては、学生一人ひとりの「なりたい自分像」の実現に向けたアドバイスを必要に応じ行っている。他に、学生生活上でのさまざまな悩みや問題については、学生支援センターで行う専門のカウンセラーを利用する体制が整っている。

（点検・評価の結果）

新入生への取り組みは、「大学要覧」「授業科目履修心得」「授業時間割」を全学生に配布するとともに「学則」、「学部内規」およびカリキュラムについての説明をし、授業計画も立てることができるようにしており、おおむね順調に進んでいる。また、「履修心得」は毎年より分りやすくなるように改訂している。なお、履修に関しても、学部教務主任・副主任および教務担当の事務職員が必要に応じて指導をおこなっている。

また、外国人留学生の場合は、一般学生とは別にオリエンテーションを開催して一般学生と異なるカリキュラムの部分についての説明をしており、問題なく理解ができるようにしている。

編入学生については、編入学後の履修内容が学生によって異なるため、単位認定の面接時に履修指導も行っている。

なお、2001年度より、全学的なシラバスの作成およびホームページによる公開という施策に対応しており、各教員が講義目的・授業内容、テキスト、授業方法、成績評価の方

法と基準等について、詳細なシラバスを作成することによって、学生が受講科目を選択する際の一助となっている。

履修届の提出にあたっては、事務職員が窓口でその内容をチェックするとともに、学生の質問や疑問点に対して、丁寧に応答するようにしている。また、履修届の修正期間においては、学生からの登録科目の変更の申し出にできるだけ柔軟に対応するようにしている。

社会福祉学科においては、より質の高い実習指導を行うために、実習指導室の実習生や実習先機関に関するデータベースのシステムを開発し、ホームページを開設した。

なお、リメディアル教育については2006年度に向けて検討中である。

(改善の具体的方策)

教育・研究指導をさらに効果的にするために、「大学要覧」「授業科目履修心得」および「授業時間割」など説明書をさらに分かりやすくするなど工夫改善をする。また、教員が、オフィスアワーやゼミなどで学生と接する機会を利用して指導を増やす。

3.1.4.3 教育方法のあり方

【評価項目 6-3-1】 授業形態と授業方法の関係

(必須要素) 授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性

(必須要素) マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性

(必須要素) 「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性

<2003年度に設定した目標>

1. 授業で使用される視聴覚機器の充実をはかるとともに、そうした機器の利用が可能ないように教室環境を整備していく。
2. マルチメディア教育の一環として、学部で独自に作成したビジュアル・テキストを用いた社会学教育を行っていく。
3. 少人数教育を実施する場所として、教授研究室の充実を図る。
4. 社会調査の実習科目として、新たに「社会調査実習」という科目を設け、調査の企画から実施、分析、報告書の作成までを学生が実際に体験できるようにする。
5. 社会人をゲスト・スピーカーとして招請するとともに、社会現場での多様な実習を通じて、学問と社会との接点を学生に認識させ、将来の職業人としての自覚を高めさせる。
6. これまで毎年行われてきた「関西学院大学社会福祉OB・OGの集い」の在り方を見直し、学部の正式なイベントとして位置づけるとともに、学生、院生、卒業生、教員との連携をより強固にする場とし、研究、教育、実践のさらなる促進をめざす。

(現状の説明)

1. 少人数教育の実践

社会学部では従来から少人数教育の実践に努めており、その主なものとしては基礎演